

# 新潟支部会報



一般社団法人 大学女性協会新潟支部

2022年3月 No. 6

## 目次

支部奨学賞授与式開催報告・・・1～4 頁

会員アンケート報告後編・・・6 頁

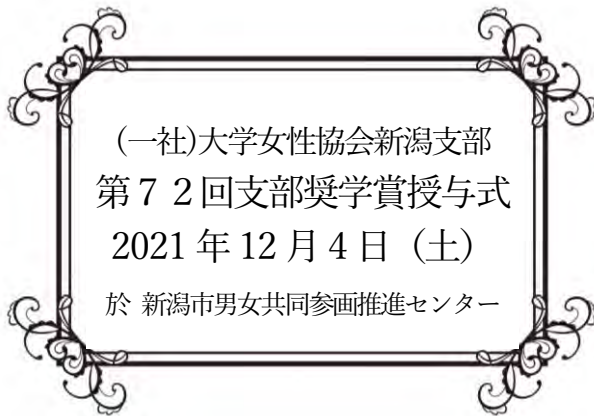
支部国際奨学賞ヴェトナムからのレター・・・4 頁

支部の動き・・・7 頁

1 月学習会報告・・・5 頁

お知らせ ほか・・・8 頁

## 支部奨学賞授与式 開催報告



## 受賞者

エデリシンハ アーラチゲ チャヤニ デルクシ さん

(長岡技術科学大学大学院 工学研究科 情報・制御工学専攻 博士課程1年)

高橋 七瀬 さん

(新潟大学医学部保健学科4年)

ごあいさつ ～第72回新潟支部奨学賞授与式開催に寄せて～

支部長 大淵 智絵

第72回を迎えた大学女性協会新潟支部奨学賞の授与式、大切な伝統事業を今年も無事開催し、2名の受賞者をお迎えすることができました。

私ども新潟支部は本部創立の翌年1947年に結成されました。支部奨学賞はその3年後1950年に第1回目の授与式が開催され、これまでに976名の新潟の女子学生に賞を贈り続けてまいりました。2012年からは小論文による応募の方式を採用し、今年10年目を迎えました。これをきっかけにジェンダー問題への関心を喚起したいという思いで始めましたが、若い皆さんから社会をより良くするヒントを頂く機会にもなりました。

応募いただいた小論文のテーマは「コロナ禍を通してジェンダー平等社会を考える」です。受賞のお二方とも日ごろからの優れた学習態度と小論文のテーマに真摯に取り組まれたことでの採用です。今後専門を深め、ご多忙となる中でも様々な生き方、様々な年代の女性との出会いを大切に、より豊かな人生となるよう願います。

## 第 72 回支部奨学賞 受賞者論文要旨

### 「コロナ禍を通してジェンダー平等社会を考える」

**エデリシンハ アーラチゲ チャヤニ デルクシ**

**長岡技術科学大学大学院 工学研究科 情報・制御工学専攻 博士課程 1 年**

COVID-19 のパンデミックは、世界中の人々の生命と生活に影響を与えています。パンデミックとその経済的影響が、男女の平等に逆行する影響を与えていることはすでに明らかです。女性は COVID-19 に対抗して最前線で活躍しています。女性は、医療機関で働く割合が高い上に、家事や育児の大部分を担っています。また、将来的なおり、経済的不安のリスクが高く、暴力、搾取、虐待、ハラスメントのリスクが高まるなど、複合的な負担を強いられています。

パンデミックは、これまで既存のあらゆる不平等問題を増大させます。今、ジェンダーの平等に焦点を当てることはできないと主張する人もいるでしょう。また、危機が去ってからでいいと言う人もいるでしょう。しかし、それは誤った選択であり、両者を全く別のものと見なすのは間違いです。むしろ、あなたがよく知っているパンデミックは、あなたがいつも見えていなくても、あなたも共に生きているパンデミックを加速させているのです。女性のリーダーシップ、包括性、貢献が、コロナウイルスの回復・復旧活動の中心となるべきです。



デルクシさん

【自己紹介】日本に来る前にスリランカの大学で教えていました。長岡技術科学大学大学院で、様々な香料のアロマと人のストレス反応について研究しています。昨年の実験で、ペッパーオイルとジンジャーオイルを使い、実験の結果は、ペッパーオイルを使った人の方が、他のオイルを使った人よりストレスが少ないということが分かりました。

最近日本の大手企業との共同研究を行っています。日本人の友達と一緒に実験する機会があるので楽しいです。これらのタイプの実験は私の国にとっては新しいものです。将来スリランカでこのような研究を確立していきたいと思っています。

**高橋 七瀬**

**(新潟大学医学部保健学科 4 年)**

副題 「諦める」から「挑戦する」へ：保健学研究を目指すスタートラインに立つて

コロナ禍で、ジェンダーの格差が一層広がっています。この原因として、日本特有の社会システムやジェンダーによるアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）が考えられます。この小論文では、特に後者の無意識の偏見によって、女性がキャリア形成を諦めずに済むような方策について、自らの経歴・体験を例にとって論考しました。大学という高等教育を受ける機会を逃さず、挑戦することで、幅広い視野の持てる教養教育と出会ったり、専門的な研究活動に従事する機会に恵まれたりする。大学院という高等教育機関でより高度な、深い研究活動に挑戦することが、女性のキャリア形成に寄与する可能性もあります。女性が「私なんて」と思わずに、積極的に挑戦できる社会が実現しつつあります。ただ、今があるのは、頑張ってきた先輩女性たちがいてくれたからです。私たち世代も、諦めずに挑戦し続けることこそが、未来を明るくするのではないのでしょうか。



高橋さん

【自己紹介】新潟大学で「手洗い前後の皮膚の常在菌」や「ペットボトル飲料を飲んだ後の口腔細菌」について研究してきました。学会で報告する機会を頂き、大変勉強になりました。4月から大学院に進学し、研究成果を発表する場として海外の学会にも挑戦したいと思っています。

私は臨床検査技師でもあります。この職業は女性が多いです。しかし役に就く方は男性が多くアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）があると思います。女性が「私なんて」と思わずに挑戦していくことが大事だと思います。私は、先輩女性方のお陰でジェンダー問題に目が向けられ、現在に至ります。私も次の世代に男女平等が近付いた社会を届けたいです。そのためにも、今すべきことを頑張り、挑戦し続けたいと思います。

## 会員よりお祝いのことば

関 妙子

大学女性協会は様々な活動の母体となっており、その一つに私達は「女性議員を増やそうネットワーク新潟」という会を立ち上げました。当会会員の西村智奈美さんはその第一期生で県議、国会議員になり、この度の党幹事長就任。西村さんはこの地位でご自分の志を遂げられるのではないかと、期待し見守っています。

この会でご挨拶するときは一言プレゼントするのですが、今回は「機会を逃すな」です。これは先輩からいただいた言葉で、私の原動力となっていたように思います。「～しませんか?」と言われても辞退する人が多いのですが、苦労は多いし失敗もあるけれど、失敗も経験の一つで将来の力になります。機会を頂いたら挑戦することが大切です。「地位が人を育てる」という言葉がありますが、たいへんな地位に就きたいへんな事をする人間は大きくなるのです。皆様は研究者ですから研究課題を担うことがあると思いますが、できないと言わないで、チャンスがあったら是非挑戦して下さい。必ず将来に繋がりますので。それが私のプレゼントです。おめでとうございます。

## 西村 智奈美 (書面によるメッセージ)

本日、支部奨学賞を受賞されたお二方にお祝いを申し上げ、今後のますますのご活躍を心よりお祈りいたします。

今回の小論文でお二人が展望されたような未来のために、女性を取り巻く様々な課題の克服に向けた取り組みが必要です。私は先日、政党幹事長に就任しました。国政政党で女性の幹事長は異例のことですが、女性の政治参画はたいへん重要なことです。お二人もこれからガラスの天井にぶつかることがあるかもしれません。これを打ち破るためにも、私は衆議院議員として国会から、その先頭に立って活動を続けて参ります。それぞれの場からでありますが、一緒に頑張りましょう。

打越 さく良

会員で参議院議員の打越さく良です。ご受賞おめでとうございます。論文のテーマは「コロナ禍を通してジェンダー平等社会を考える」ですが、このコロナ禍の2年間はジェンダー不平等という社会構造のもとで、女性や子どもがさまざまな困難に直面しました。それを解消していくのが政治の役割ですが、たとえば特別定額給付金はその多くが男性である世帯主を受給権者としてしまうことで、政治がジェンダー不平等の構造をますます維持強化するという状態でした。それは政治決定の場に女性が少ないという歪な社会構造の現れではないかと思います。ご自分の研究に勤しみ、ジェンダー平等社会を考えるお二人の論文を拝読し心強く思いました。お二人の受賞は私たちにとっても励みになります。これからもしっかりと頑張っていただけよう応援します。

(一社)大学女性協会新潟支部第72回支部奨学賞授与式

日時：2021年12月4日(土) 11:00~11:45  
会場：新潟市男女共同参画推進センター  
「アルザにいがた」307・308 研修室  
次 第

- 1 開会
- 2 奨学賞授与  
受賞者(敬称略)  
・長岡技術科学大学大学院 工学研究科  
情報・制御工学専攻 博士課程1年  
エデリシンハ アーラチゲ チャヤニ デルクシ  
・新潟大学医学部保健学科4年 高橋 七瀬
- 3 支部長挨拶 大淵 智絵
- 4 お祝いのことば 関妙子、西村智奈美、打越さく良
- 5 受賞者のことば
- 6 閉会
- 7 写真撮影



関妙子会員 (左下)  
打越さく良会員 (右下)



昨年に続き、少人数の出席による会員手作りのあたたかな授与式となりました。運営へのご協力ありがとうございました。

支部国際奨学賞 ヴェトナムからのレター

PROFILE



NAME: VÕ THỊ HUYỀN TRẦN  
 DATE OF BIRTH: 13/09/2002  
 UNIVERSITY: Đại học Lao Động Xã Hội (cơ sở 2)  
 MAJOR: Quản trị nhân lực  
 HOMETOWN: xã Mỹ Chánh, huyện Ba Tri, tỉnh Bến Tre

Self-Introduction, Your contact information & Message to a donor:

Kính gửi: Quý học bổng NVC, JAUIW Niigata Branch  
 Em tên là Võ Thị Huyền Trần hiện đang là sinh viên năm 2 trường Đại học Lao động Xã Hội (cơ sở 2) ngành Quản trị nhân lực. Hôm nay em viết thư này để gửi lời cảm ơn chân thành nhất đến Quý học bổng NVC. Em thật sự rất may mắn và hạnh phúc khi nhận được suất học bổng này. Với em đây không chỉ là niềm động lực về vật chất mà còn là niềm an ủi về tinh thần giúp em vượt qua được mọi khó khăn trong học tập và cuộc sống.  
 Khi nghe tin em được nhận suất học bổng này em cảm thấy rất vui và hạnh phúc. Nó sẽ giúp ích được rất nhiều trong việc học tập và sinh hoạt của em. Em sẽ luôn cố gắng học tập hết mình để không phụ tấm lòng của các nhà tài trợ đã tin tưởng ở em.  
 Cuối lời em xin gửi lời chúc tốt đẹp nhất đến các cô, chú trong Quý học bổng NVC. Em xin chúc cho quý học bổng sẽ ngày càng có nhiều thành công và luôn đồng hành cùng các bạn có hoàn cảnh khó khăn.  
 Em chân thành cảm ơn  
 Võ Thị Huyền Trần  
 DATED: 12/10/2021

新潟支部国際奨学賞にて昨年度から4年間の支援を行っているヴェトナム奨学生から嬉しいレターが届きました。大きく花開くことを期待し見守りたいと思います。

氏名：ヴォ・ティ・フエン・チャン  
 大学：労働社会大学（第2校）  
 専攻：人材管理  
 出身：ベンチェ省バーチャー県ミーチャイン村

大学女性協会新潟支部の皆様

私は、ヴォ・ティ・フエン・チャンと申します。現在、労働社会大学（第2校）で人材管理を選考している2年生です。私は本日、心からの感謝を込めてこの手紙を書きました。この奨学金をいただき、本当に嬉しく思っております。私にとって、この奨学金は物質

的な支えであるだけでなく、自分の勉強や生活における困難を克服するための精神的な支えでもあります。奨学金をいただけることになったと聞いたときは、とても嬉しくなりました。この奨学金は、私の勉強と生活の大きな支えとなっています。支援して下さった皆様のご期待と信頼に応えられるよう、一生懸命に勉強していきたいと考えております。

最後に、大学女性協会新潟支部の皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。奨学金事業がますます成功し、困難な状況にある学生たちと共にあることを願っています。この度は誠にありがとうございました。2021/10/12

## 1 月 学習会報告

国際交流部学習会

国際交流部 鈴木裕美

日時：2022年1月22日(土) 13:30~15:00 オンラインにて開催

持続可能な開発目標 (SDGs) を知る〜ターゲット 5. ジェンダー平等を実現しよう から読み解く世界の目標

講師：三上杏里 国際交流部部長 新潟ボランティアセンター代表

当会のヴェトナム奨学賞の橋渡しの役割でもお世話になっている NVC 新潟ボランティアセンターの活動内容を、講師ご自身の自己紹介も交えてご説明いただいた。会を理解いただくためには、その「ビジョン」と「ミッション」が大切であり、それらをアピールしてゆくことが活動への理解につながるのお話から始まった。NVC の目指す社会としては人と人との境界をこえること、社会的な役割としては具体的にはヴェトナムを中心とした世界の貧しい子をサポートしてより豊かな世界を築く活動をしておられるとのことで、まさに国連が提唱して、昨今盛んに取り上げられる提言 SDGs に沿っていると自負しておられるとのことであった。

そもそも SDGs とは 2000 年に 8 目標を掲げた MDGs という考え方から始まった。そこから 15 年たって見直しもされ、更に細分化され 17 の目標と 169 のターゲットが設けられた SDGs が決定された。この目標が素晴らしいところは開発途上国だけの課題解決ではなく、並行して先進国も課題解決するための「双方共通の言語」が設けられたという点である。また、具体的にどのような課題に取り組んでいくのか、169 のターゲットがその指標となっている。SDGs を大所高所から論ずるのではなく、若い世代がすでに取り入れているように、身近な活動の理解を深めるツールとして活用してほしい、とのこと話は新鮮であった。たとえば、「東京ガールズコレクション」や「ハローキティ」の活動、古くはピコ太郎の発言もインフルエンサーとして注目に値する。

NVC の活動でも奨学金の寄付はもちろん、貧困から抜け出すための留学生への助成をすることや、フェアトレードやバザーを通じて働き甲斐を知らしめ経済成長を促すことなどは、まさに SDGs の各項目に当てはまると自負している。そのように各企業も昨今とみにこの目標に注目しているように、この考え方をツールとして利用し、インサイドアウト、また逆にアウトサイドインで取り込んでゆくことが大切であると考えている。

振り返って当大学女性協会の活動にもぜひこの考え方を取り入れ、例えば「完全かつ平等なリーダーシップの実現」や「ICT 等技術活用強化やエンパワメントのための公的資金の監視や配分システムの割合」といったテーマなどでこの目標に当てはめて調査、提言してゆくことが望まれるのではないかと、といったご提案もいただいた。

講話終了後の質問では、この考え方に沿った個人意識の向上と自治体の役割は両輪であるという考え方にも話が及び、新潟県での環境リーダーを募集する会議において、SDGs の項目を広報に取り入れるべき提言をしたいきさつを五十嵐由利子会員から披露いただく場面もあり、私どもの理解も深まって誠に有意義な勉強会であった。



## 会員アンケート報告 後編

昨年度からの新型コロナウイルス感染拡大により、当会の活動は会員同士顔を合わせる機会が急激に減少しました。希薄になってしまったコミュニケーションの一助にと、昨年8月に会員の近況を伺うアンケート調査を行い16名の方から回答をいただきました。会報No.5に続き報告いたします。

問⑤ 支部奨学賞応募論文のテーマが「コロナ禍を通してジェンダー平等社会を考える」になりました。このテーマのもとで思うことがあれば書いてください。

2020年版の男女共同参画白書によると、コロナ禍で非正規労働者を中心に雇用情勢が急速に悪化する中で、特に女性にその影響が大きいことがわかりました。男女共同参画の遅れがこれではっきり見えたわけですがこれをチャンスととらえさらなる女性の地位向上への努力をしていかななくてはならないのだと思います。

コロナ禍で、加害者も被害者も家にいる時間が長くなり家庭内暴力や虐待が増える傾向にある。男性だから、女性だからという理由で不平等が生まれないようにし、一人、一人が周りの人にジェンダーを押し付けていないかを考える事が大切であると思う。又、政府も経済的に国民が安定、安全な生活を送れるように十分な支援をすべきだと思う。

的を射たテーマだと思います。今までの生活の経過も含め各々環境、年齢、社会、地域からもそれぞれの考えが出てくると思われます。

コロナ禍での営業不振で、サービス業、パート職の多い女性たちにしわ寄せがいく傾向がある。なぜ日本女性はパートが多いか、と考えた時に、ジェンダーによるバイアスが見えてくる。男女の役割分担意識、家制度による家父長制や夫婦同姓の問題など、意識と制度の両方で問題が山積している。

この時期、社会的な問題に積極的に考える余裕がありませんでした。

産業革命と同等の変化をもたらす出来事に、まだまだ弱い立場の女性が立ち位置を取得する良い機会と捉えるか考察、検証したい。

ジェンダーの問題として「男女共同参画社会」の推進が以前から取り上げられていますが、コロナ禍でますます必要性、重要性が論じられるようになってきていると考えます。先進国で日本はほぼ最下位にあるのは「女性議員が少ないことが要因」と新聞紙上である研究者が結論づけていました。女性議員の「クオータ制」の導入の取組が先決かなど。でも多様性を重んじた社会になって全面的に賛成されるかどうかはわかりませんが。

年代別女性就労者のM字カーブが段々緩くなってきている背景に、非正規雇用が多いこともあげられる。コロナ禍がそのような人たちへ大きく影響していることがニュースでも取り上げられているが、非正規雇用を望む企業、また、女性自身(または家族)の意識などに、教育(学校及び社会)が与えてきた影響はどうなのだろうかと思う。

非正規雇用の方々やひとり親家庭のジェンダー不平等が拡大していると思います。緊急事態宣言下の飲食業の方々への支援については報道されますが、職を失った女性や収入が減った女性への支援については政府の支援の方針がみえません。「生理の貧困」は女性の健康を蝕むことにつながりかねない事態ですから、きちんと対策を立てるべきだと思います。

自粛生活の中で家事労働がクローズアップされ、昨年の論文の中にも論点として書かれているものがあつた。「女性が仕事をもち社会で活躍する」という見方だけでなく、女性が担ってきた家事労働にも注目したい。それによって、ほとんど声をあげる事ができなかった女性にも日が当たり、共感を得る事ができると思う。

【ご協力ありがとうございました!】



## 支部の動き 11月～2月

### 【11月】

- 11/1 支部会報No.5 発送（「災害の記憶をつなぐ」原稿募集、JAUW セミナー案内含む）
- 11/15 奨学賞担当者作業（メール）
- 11/30 支部奨学賞授与式のための親睦部作業

### 【12月】

- 12/4 第7 2回新潟支部奨学賞授与式
- 12/4 役員、部会長打ち合わせ
- 12/4 にいがた女性会議運営委員会に出席／高橋
- 12/15 親睦部作業 授与式文字起こしほか（メール）
- 12/22 アルザにいがた交流会に出席／田代
- 12/27 第2回支部長懇話会（Zoom）／大淵
- 12/27 1月例会案内発送

### 【1月】

- 1/8 にいがた女性会議運営委員会に出席／大淵
- 1/19 国際交流部打ち合わせ（Zoom）
- 1/19 アルザにいがた 30 周年メッセージの提出
- 1/21 山田和子会員の御逝去に弔電
- 1/22 1月例会、国際交流部学習会（Zoom）
- 1/25 （公財）新潟県女性財団評議員会（書面）/五十嵐
- 1/31 第5 回役員会、第3 回運営会議（Zoom）

### 【2月】

- 2/14 次年度事業計画案と予算案を本部に提出
- 2/20 会報担当打ち合わせ（メール）
- 2/28 会報担当打ち合わせ（Zoom）



1月22日国際交流部打ち合わせの様子。  
部会など少人数の打ち合わせにもZoomは便利です。  
ご活用ください。

○第2回全国支部懇話会 出席報告 支部長 大淵智絵 12月27日 20:00～21:30 Zoomにて開催

今年度から始まった本部主催の全国支部懇話会。第2回目は会員拡大のためのワークショップが実施されました。JAUWの強みと弱み、それぞれを内部から外部からの視点で意見を出し合うなど、懇話を深めました。ほかに「災害の記憶をつなぐ」誌の計画説明など、短い時間ながら充実の会となりました。

○1月例会報告

- ・全国支部長懇話会にて再募集された本部作成の「災害の記憶をつなぐ」冊子への執筆参加依頼
- ・次年度の総会を書面開催にすることについての意見聴取（次回役員会での議事とする）
- ・今後の支部活動日程の確認（予算決算、事業会計報告、役員会など）
- ・部会打ち合わせ 各部会に分かれ来年度の担当例会の開催の有無、開催月、テーマなどの打合せ（Zoom会議をグループごとに分けるブレイアウトルームの手法を利用して）

～おくやみ～

当会会員の山田和子さんが1月17日にご逝去されました 謹んで哀悼の意を表します  
1月22日の1月例会では山田さんを偲び出席者より黙祷を捧げ また規約に則り 支部より弔電をお送りしましたことを報告します

山田和子さん

1977 年ご入会 1993-1994 年支部長 2010 年 JAUW 総会新潟大会実行委員長

このほかにも親睦部長として毎年の親睦旅行や奨学賞を贈るつどいの企画運営、奨学金資金のための活動など、特に会員交流の事業では先頭に立ってご活躍くださいました

長年に渡り当会をお支えいただいた山田和子さんに心より感謝申し上げます

## お知らせ

### ○令和4年度 支部総会の開催について

前年度に引き続き書面による開催といたします。4月上旬に議案書を郵送しますので、ご覧の上、同封の表決はがきの返信をお願いいたします。

### ○ホームページなどでの情報提供をご利用ください

現在、次のサイトから情報発信をしています。どうぞご利用ください。

1, 新潟支部ウェブサイト  
支部の活動報告を主に発信

<http://jauwniigata.blog.fc2.com/>



2, 新潟支部情報ノート  
支部に集まる様々な情報を  
支部会員向けに発信

<https://qr.paps.jp/wGCW0>



3, JAUW 本部ホームページ  
本部発信。支部のページからは  
過去の支部資料もご覧になれます

<https://www.jauw.org/>



### 編集後記

窓から見やる雪にまだ如月、されど立春過ぎれば却陽射しに春の気配、皆様のお手元に会報No.6が届く頃には桜の便りが聞こえる頃でしょうか。

長い冬に、奨学賞を贈る会授与式、1月例会も無事に終了いたしました。今号にもアンケートを通して、皆様から貴重な意見を頂きつながっている事に感謝いたします。

どうぞ、コロナウイルス禍でもお体大切に、ご一緒に明るい春を迎えられるようお祈り申し上げます。

会報担当 吉谷美知子

会報担当 (五十音順)

大淵、鈴木、登坂、三上、吉谷

新潟支部会報 No.6

(一社) 大学女性協会新潟支部  
支部長 大淵智絵 鈴木裕美

<http://jauwniigata.blog.fc2.com/>

発行日 2022年3月10日